

戦後公共図書館建築の歴史 3

日本図書館協会施設委員会による活動 1960～70年代を中心に

オーラルヒストリー研究グループ
奥泉 和久（元横浜女子短期大学図書館）
石川 敬史（十文字学園女子大学）
小黒 浩司（作新学院大学）

1. はじめに

戦後日本の図書館建築の歴史を通覧するとき、そのスタートの時期は1950年代から60年代とされ、代表的な建築には八戸市立図書館がとり上げられてきた。同館の設計は、日本図書館協会（以下、日図協）施設委員会による。同委員会は、1970年代に入り町田市立図書館（1972）、相模原図書館（1974）などの設計に関与し、図書館建築をリードした。

しかし、委員会活動については、西川馨『図書館建築発展史』（丸善メイツ, 2010）が概説している程度で、これまでほとんど検討されていない。同委員会の母体日図協の『近代日本図書館の歩み』（日本図書館協会, 1993）にも具体的な記述はない。それには図書館建築史研究の蓄積が十分ではないこと、図書館建築が、図書館運動としてとらえられてこなかったことなどが考えられるが、そもそも図書館建築・設計については、建築家の領域との考えが図書館側にあり、そのため図書館員の役割について、必ずしも明確な位置づけがなされず、理解が一部の図書館員にとどまっていたことも関係していると思われる。

そこで、ここでは1950年代の委員会の成立期から、本格的な活動をスタートさせる1960年代から70年代にかけて、とくに公立図書館の建築・設計の計画に関わった経過を辿り、委員会活動の意義と役割について検討する。

本研究は、「戦後公共図書館建築の歴史」の第3にあたる^{1) 2)}。

2. 研究の目的など

2.1 研究の視点

菅原峻³⁾は、「施設委員会の歴史は、戦後の図書館建築史とも重なるものだと思う。そのあたりを少し調べて書くことにしよう」⁴⁾と施設委員会の役割と意義について、自らその検証を試みようとの考えがあったようだが、未完のままに終わった。菅原は、日図協に就職して同委員会の事務局を担当していたが、図書館員の立場で関わったと見てよいであろう。菅原の指摘は、施設委員会成立の経緯、活動内容を検討する手掛かりとなる。

菅原はまた、また、同委員会委員で中心的な働きをした佐藤仁⁵⁾を、建築家として高く評価していた⁶⁾。その佐藤について、栗原嘉一郎は、佐藤を追悼するなかで、その業績のひとつに施設委員会活動をあげている⁷⁾。佐藤自身も、委員会について、早い段階でその意義について見解と課題を述べている⁸⁾。佐藤の発言は、施設委員会活動について、その意義が共有されていたことを示している。

2.2 先行研究

1950年代の委員会成立前後の活動から70年代に活発な活動を展開する時期にかけて、委員会活動を調査・分析し、新たな展望を見出すに至る過程などについて、図書館界の動

向と関連させて検討した研究はない。本テーマ全体に関わる先行研究は、すでに前稿に記したので、ここでは今回の範囲に限る。

1950年代から60年代の図書館建築の状況、課題などを知るうえで佐藤による文献が参考になる^{9) 10)}。施設委員会について検討した論考ではないが、佐藤は、図書館建築を成功させるには、建築家と図書館員による共同研究が求められるとし、施設委員会についても言及している¹¹⁾。西川馨は、1972年に委員会のメンバーになっているため、当事者のひとりといえるが、本テーマの対象とする時期とは重ならないので、ここでは、第三者と見なす。『図書館建築発展史』において、第1部で「中小レポート」以前における図書館建築の到達点のひとつに八戸市立図書館の設計をあげ、第3章に施設委員会の発足とその活動を解説、第2部では、中小レポート以降の施設委員会に言及し、委員会活動の意義を評価している¹²⁾。

3. 委員会準備期～吉武委員長時代

施設委員会の発足前後から、1970年代までの活動について、3つの時期に区分した。1948～54年は、委員会が組織化されるまでの期間で、準備期に相当。1955～63年は、委員会が正式にスタート、委員長は秋岡梧郎。1964～78年は、委員長が吉武泰水であった。

3.1 委員会準備期 1948～54年

戦後再発足した日図協の委員会構想に、建築・設計に関する委員会があり、1948年以降、図書館建築委員会（1948）、図書館建築用品委員会（1949）、設計委員会（1950）が成立しているようだ。しかし、それ以上の記録がなく、実際に活動していたかは不明である。

1951年に、用品・設計委員会、図書館用品と設計に関する委員会が設けられ、古野健雄¹³⁾がいずれの委員会の委員長を兼ねている。用品に関する委員会が先行して活動を開始している。設計については不明だが、その後も図書館の設計について、援助や指導を行う、とある。

1954年になると、「昭和28年度事業報告」の「IV 図書館の設計援助」に「三条市立図書館を始め公共、学校図書館の設計の相談にのり、又視察旅行の援助を行った」¹⁴⁾と具体的な記述が見える。菅原峻によると、この頃は秋岡梧郎が自宅で相談を受けていたという。

新潟県の三条市立図書館から相談があった際には、東大の吉武泰水¹⁵⁾に相談している¹⁶⁾。同館については、『図書館建築平面図集・I』に、平面図とともに「日本図書館協会施設委員会案」の平面図が収録されていることから、委員会で案を作成していたと考えられる¹⁷⁾。委員会活動は表1のとおりである。

表1 委員会準備期（1948～54年）の活動

1948年（昭和23）	図書館建設委員会
1949（24）	図書館建築用品委員会
1950（25）	設計委員会
1951（26）	用品・設計委員会 この間活動実績なし？
1953（28）	図書館の設計指導 委員会の記載なし
1954（29）	図書館の設計援助 / 三条市立

3.2 秋岡委員長時代 1955～63年

3.2.1 委員会活動について

1955年に施設委員会が置かれ、秋岡梧郎¹⁸⁾が委員長、1959年古野健雄、栗原嘉一郎、佐藤仁が委員となり運営体制が整備されたようだ。9年間に、16館の図書館に対し相談・援助していた¹⁹⁾。建築に関する助言・相談など関与の度合いは一様ではなかったようだ。

新築、改築の別があり、図書館の規模では、県立、市立、町立と幅広い。1955年と1957年に『図書館建築平面図集』²⁰⁾を2集作成している。委員会活動は表2のとおり。

表2 秋岡委員長時代(1955～63年)の活動

1955年(昭和30)	施設委員会、秋岡委員長 / 秩父市立 / 『図書館建築平面図集・I』
1956(31)	室蘭市立
1957(32)	『図書館建築平面図集・II』
1959(34)	都城市立 長崎県立 京都府立 若松市立 川崎市立 大門町立 宮崎県立
1960(35)	八戸市立 魚津市立 山形県立 日立市立 高田市立
1963(38)	練馬区立 文京区立小石川

3.2.2 八戸市立図書館の設計

八戸市立図書館は、日図協がはじめて建築設計を受注した図書館である^{21) 22)}。図書館建築に施設委員会が関与することを疑問視する向きもあったとされる²³⁾。

同館の設計は佐藤による。1958(昭和33)年度設計競技全国審査入選作品「市民図書館」の1等に佐藤・栗原嘉一郎の作品が選出されていて、その発展形とされる。この作品について、菅原は、「公共図書館建築の歴史を検証するために1里標となるものだ」と指摘²⁴⁾。また、西川はこの作品が八戸市図書館設計への橋渡しとなったと述べている²⁵⁾。

建築の意義を佐藤は大きく2点あげている。第1、旧市部内に中央館、周辺部に分館、配本所を配置して図書館網を形成、相互の連絡にBMを活用する。全体計画の第1次計画が中央館の建設。第2、館内は、全体の空間を、閲覧、書架、事務の3つのゾーンに分け、書架スペースと閲覧スペースとの中間部にコントロールデスクを設け、図書館管理の能率化をはかったこと²⁶⁾。

上記第1について、菅原は1968年の全国図書館大会において「基本は市全体の図書館計画をたて、そのうえで中央館を設置し、計画的に分館、ブック・モビルを考えたのであるが、10万人程度では中央館ひとつでことたりるといふ空気が強く、サービス拠点を増やすということは省みられていない。」²⁷⁾と発言していた。

3.3 吉武委員長時代 1964～78年

3.3.1 委員会活動について

1964年委員長が秋岡から吉武泰水に代わる。新体制となった翌1965年に図書館建築研究会を開催。報告「公共図書館の地域計画について」が『図書館雑誌』に発表される。吉武委員長時代に施設委員会が関与した図書館は、平塚市立、長岡市立互尊文庫などで、秋岡委員長時代に比べ館数は多くないが、それぞれに建設計画、それに関わる調査研究など1館当たりにかかる比重が大きくなったためと考えられる。この時期の活動は表3のとおりである。

表3 吉武委員長時代（1964～78年）の活動

1964年（昭和39）	吉武が委員長に
1965（40）	4月図書館建築研究会「公共図書館の地域計画について」/7月『図書館雑誌』に掲載 / 『図書館建築図集』
1967（42）	平塚市立 長岡市立互尊文庫
1971（46）	町田市立 相模原市立 茂原市立
1972（47）	桐生市立
1973（48）	福山市民 / 「地域計画から図書館計画へ」『図書館雑誌』
1974（49）	柏市立
1976（51）	岐阜県立
1978（53）	春日部市立 我孫子市立 大和市立 大津市立
1979（54）	栗原嘉一郎が委員長に 『図書館建築図集'79』

3.3.2 地域計画・図書館計画の調査研究

新体制となった翌1965年4月に図書館建築研究会を開催。報告「公共図書館の地域計画について」が『図書館雑誌』に発表される²⁸⁾。レジュメに相当する資料が『図書館雑誌』に掲載されている。研究会開催の意義については、次章で検討する。

1973年9月「地域計画から図書館計画へ」を『図書館雑誌』に発表した。施設委員会が公共図書館の地域計画について発表してから8年が経過。1970年代になると地域計画に裏づけされたいくつもの図書館が出現するようになった。また、図書館サービス網の整備が、図書館振興施策の中心課題となると、より緻密な計画が求められる。そこであらたな図書館計画を築く必要性について論議されることとなった²⁹⁾。

4. 1963～65年、委員会活動の転機について

1964年、委員長が吉武に交代した翌1965年図書館建築研究会が開かれる。以降、委員会は、地域計画の普及を目指すことになる。この章では、活動の転機となったこの研究会について検討を加える。

4.1 図書館建築 現状と課題

図書館建築の研究は、1953年から東大の吉武研究室で守屋、栗原、佐藤が中心になって開始された。1961年秋には、アジア財団の援助により国際文化会館において図書館建築セミナーが開かれ、図書館員と建築家が一堂に会したとされる。このとき、吉武は、図書館建築計画の研究について、今後は広く住民側の調査を加えていくべきことを提案していたという³¹⁾。佐藤は、図書館建築の現状と課題について次のように整理している。

- 1 公共図書館の場合、建築が政策的、宣伝的（市民の意向が反映されない）
- 2 建設態勢・手順が不明確。（図書館員の発言権がなく、意向が設計に反映されない）
- 3 図書館側が、図書館の機能を正しく把握していなかった（図書館員が自館の機能について把握が不十分、また、将来構想について具体案がないこと）³²⁾

また、公衆の利用主体に運営を改革し（貸出の重視）生活の維持や向上に図書館の必要性と価値を身近に感じたとき、はじめて公衆の同情と支持を勝ち得て充実した発展を遂げることができる³³⁾と述べ、図書館の機能、役割について再検討の必要性を提起した。

1963年6月、佐藤は、関東地区公共図書館研究発表大会において、これからは多くの図書館を地域につくる必要で、相互協力組織をつくり、図書館網のなかで各館が自館

の正しい位置づけをする。それによってその図書館の目的、機能が設定され、そこから始めて（ママ）建築計画が生まれてくる³⁴⁾と図書館員に呼びかけた。

4.2 課題解決への歩み

1963年3月、『中小都市における公共図書館の運営』（「中小レポート」）が発行される。菅原は、施設委員会が、「中小レポート」の「館外奉仕のむすび」において、本館、分館、ブックモビルなどが、「図書館サービス網」の原型」として図式化され、また、図書館協力の問題が切実な問題となると強調していることを注視、「中小レポート」の出現と相呼応して、全市的なサービス網計画のなかに施設を位置づけようとした³⁵⁾、と説明している。

研究のプロセスは次のようだった。1963年12月、「中小レポート」を中心にして図書館建築のあり方を検討。1964年1月、「中小レポート」作成の委員長だった清水正三を招き、「公共図書館の機能と施設」について検討。以降は、2月「図書館計画のあり方」、4月、6月は森博³⁶⁾による地域図書館計画の報告、春日井市の研究。8月、9月、12月、1965年2月は、佐藤が中心となって春日井市の図書館計画を検討している。

佐藤は、施設委員会の問題意識について、今後の図書館計画を立てるにあたって地域住民の末端に至るまでのサービス体系を前提とした地域図書館の概念規定を試み、その体系下にある各機能と施設計画の基本的な考えをまとめたとしている³⁷⁾。1965年4月、図書館建築研究会「公共図書館の地域計画について」のレジユメの骨子は以下のとおりであった。

研究の経過 一昨年以來数次にわたって研究してきた（1963年以降）

考え方の基礎 『中小都市における公共図書館の運営』

主目的 中小図書館の地域計画をどうするか、それを「地域図書館」ととらえた

ケース K市（春日井市） I 地域図書館の概念 / II K市の図書館計画

4.3 地域計画作成の普及へ向けて

森と同じ時期に委員会に加わった栗原嘉一郎³⁸⁾は、「公共図書館の地域計画について」に続けて論文を寄稿。ニュータウンに地域計画を提案しているのが建築家（佐藤）であることについて、「絵に描いた餅に終わる危険性を内蔵」していると指摘。図書館界が地域計画をどう受け止め、実現していくのが課題だとした。³⁹⁾

地域計画を図書館現場にどのように反映させていくかが問われることになる。長岡市立互尊文庫の設計に際しても、「4 互尊文庫のこれから」の「2 地域計画の具体化」で、地域計画について、「具体的な計画は、今後図書館側の努力によって一步一步つくり上げるものと期待している」としている⁴⁰⁾

佐藤仁は、同じ頃、公共図書館の地域計画を提唱して、かれこれ10年近くになるが、具体的に計画・実施している地方自治体は極めて少ないと記し⁴¹⁾、「図書館に対する施設側からの調査と並行して、地域住民側からの調査を加え、地域施設としての図書館に対するニーズを幅広く捉えようとしていた。」と、同委員会が果たした役割について触れた。

5. おわりに

1960年の八戸市立図書館建築設計は、市全体の図書館計画のもと中央館が建設されたが、サービス拠点を増やすまでには至らなかった⁴²⁾。1964年の図書館建築研究会は、地域計画の普及のため、周到な準備がなされた。地域計画に対する理解には時間を要したが、徐々に広がりを見せていく。

本報告の第1回目にとり上げた調布市立図書館では、1965年に「調布市図書館地域計画図」を提案し、分館などの配置予定図を作成しているが、これについて西川は、「参考にできるものとしては1964年の図書館協会施設委員会のモデル研究があった」⁴³⁾と述べている。また、町田市立図書館は、施設委員会が作成した基本計画書⁴⁴⁾にもとづき、1972年の本館、鶴川分館に続き、1974年金森分館、1976年木曾山崎分館を整備していく。その一方で佐藤は、1971年日野市立多摩平児童図書館（分館）を完成させた。

日図協『図書館ハンドブック』には、「施設」に関する章があり、そこには代表的な図書館建築が掲載されている⁴⁵⁾。『市民の図書館』にも、図書館建築の図版が挿入されている。改訂・増補の際にはそれぞれ図版の差し替えが行われている⁴⁶⁾。それを比較したのが表4である。1960～70年代は図書館建築が変化の時期であったこと、とりわけ、分館の掲載（表中の太字）に委員会活動の成果が反映されているといえよう。

表4 日図協出版物における代表的な図書館建築の変化

HB 1960	『市民』1970	『市民』増補版1976	HB 第4版 1977
港区立麻布 中央区立京橋 1924 江戸川区立小岩 1953 墨田区立寺島 1952 岡山県総合文化センター倉敷分館	長岡市立互尊文庫 豊島区立千早計画案 大田区立洗足池少年室 分館の例 西ドイツ、イギリス	日野市立中央 1973 千葉市立東部 1973 日野市立多摩平児童（分館）1971 町田市立金森分館 1974	日野市立中央ほか 13館 一覧（図版なし）

注 『市民の図書館』は『市民』、『図書館ハンドブック』はHBと略記。

1974年には、佐藤・西川による図書館建築・設計のテキスト『公共図書館』⁴⁷⁾が刊行された。このテキストの普及とも関係したのであろう、1978年の論文で菅原は、「自治体の全域に対する落ちこぼれのないサービス網計画をたて、その中に一つ一つの建築を考えてゆくという道筋が、誰にも理解されるようになってきた。そのことが、あるべき建築を生み出す力にもなっているのである」⁴⁸⁾と述べた。

最後になったが、課題をあげておく。サービス網の研究については、神奈川県公共図書館基礎研究委員会が1965年に研究を開始、1970年に報告書をまとめている⁴⁹⁾。その後、1972～73年度に文部省の補助事業により、古川市、狭山市、富山市、四日市市、西宮市（1972年度のみ）、高知市において地域計画研究が行われている。これらは施設委員会の研究の全国展開への足掛かりと見ることができるのかどうか。吉武委員長のあとを継いだ栗原嘉一郎は、地域計画・図書館計画の研究を深めていく、1970年代後半から80年代の図書館建築にどのように展開していったのか、引き続き検討する必要がある。

なお本報告は、本研究グループの奥泉が中心となり整理・分析・考察したものである。

注

- 1) 奥泉和久ほか「戦後公共図書館建築の歴史 1：西川馨氏に聞く 1960～70年代を中心に」『図書館界』72(2), 2020.7, p.54-59.

- 2) 石川敬史ほか「戦後公共図書館建築の歴史 2：西川馨氏に聞く (2) 1970年代前半を中心に」『図書館界』73(2), 2021.7, p.121-128.
- 3) 菅原峻 (すがわら・たかし、1926-2011) 1953年日図協事務局。総務部長などを歴任し1978年に退職、同年図書館計画施設研究所を設立。
- 4) 菅原峻 [著]『図書館の明日をひらく：初刊：2005年3月2日 終刊：2010年3月7日：Biglobe メールマガジン「カプライト」より』菅原峻さんをしのぶ会, 2012, p.205. メルマガでは、「わたしの図書館人生 12章 17 施設委員会のこと (1)」(2008.5.3付)に、連載の意思を示していたが、中断したままとなった。
- 5) 佐藤仁 (さとう・ひとし、1927-1975) 1949年国立国会図書館建築部、庁舎の立案に携わる。1963年から横浜国立大学で図書館建築計画学を講じる。1959年から施設委員会委員(前掲4)によると、後述する古野が同じ職場の佐藤に声をかけたようだ。
- 6) 前掲4) p.124-134. 「佐藤仁さんのこと (1) ～ (7)」
- 7) 栗原嘉一郎「(故) 佐藤仁氏の業績を偲んで」『丸善ライブラリーニュース』103号, 1976, 冬, p.1037.
- 8) 佐藤仁『図書館施設の建築計画に関する研究』佐藤仁, 1966, p.333-343.
- 9) 佐藤仁「公共図書館の建築について」『図書館界』12(6), 1961.1, p.200-205.
- 10) 佐藤仁「図書館建築 (最近10年における図書館学の発展 (特集) ; 第1部 研究の歩み 総説)」『図書館界』19(4), 1967.11, p.114-117.
- 11) 佐藤仁「図書館建築を成功させるために：建築家から図書館へ」『学校図書館』(142), 1962.8, p.8-13.
- 12) 西川馨『図書館建築発展史 戦後のめざましい発展をもたらしたものは何か』丸善プラネット, 2010, p. p.28-29. および p.74.
- 13) 古野健雄 (ふるの・たけお、1903-1973) 1949年に国立国会図書館支部上野図書館に入り、製本担当。1967年新聞雑誌課長。1969年に退官。
- 14) 「昭和28年度事業報告」『図書館雑誌』48(7), 1954.7, p.266.
- 15) 吉武泰水 (よしたけ・やすみ、1916-2003) 建築学。東京大学教授などを歴任。
- 16) 前掲4) p.203. 三条市からの相談には、当時東大の助教授だった吉武泰水に声をかけたこと、手帳に記録があり、「それは委員会が置かれるもっと以前」のことだとしている(「わたしの図書館人生 12章 16 図書館協会を退く」)。
- 17) 『図書館建築平面図集・I』(図書館経営資料第1集) 日本図書館協会, 1955, 45p
- 18) 秋岡梧郎 (あきおか・ごろう、1895-1982) 1947年都立深川図書館長。1950年から52年江東区立深川図書館長。1956年大田区嘱託、大田区立池上図書館の創設準備に関わる。
- 19) 秋岡梧郎著作集刊行会編『秋岡梧郎著作集：図書館理念と実践の軌跡』(日本図書館協会, 1988)の「図書館施設関係業績」(p.266-270)には、「JLA 施設委員会」として計画に参画したとの記述があり、『図書館雑誌』に報告がない館もあるがここには含めなかった。
- 20) 『図書館建築平面図集・I』(図書館経営資料第1集) 日本図書館協会, 1955, 45p
『図書館建築平面図集・II』(図書館経営資料第2集) 日本図書館協会, 1957, 59p
- 21) 『八戸市における公共図書館の建築計画 1960』日本図書館協会施設委員会, [1960], 22p (八戸市立図書館所蔵)
- 22) 「事務局通信」『図書館雑誌』54(6), 1960.6, p.193. 1960年5月20日、八戸市と日図協が

- 研究委託の契約を結び、日図協内に八戸市立図書館建設計画委員会が設けられた。
- 23) 菅原峻「境界人、菅原峻の途中総括 助言者という選択」『ず・ぼん：図書館とメディアの本』(6), 1999.12, p.84-105.
 - 24) 前掲4) p.126. 2007.1.27付メルマガ「佐藤仁さんのこと(2)」
 - 25) 前掲12) p.44-45.
 - 26) 佐藤仁「地方都市に立つ文化センター：八戸市立図書館」『建築文化』17(189), 1962.7, p.56-62. および施設委員会「八戸市立図書館の建築」『図書館雑誌』56(8), 1962.8, p.363-370.
 - 27) 『図書館雑誌』62(12), 1968.12, p.550-553. 全国図書館大会「第2部会 公共図書館の機能と施設計画」における八戸市立図書館の計画についての発言(p.551)
 - 28) 施設委員会「公共図書館の地域計画について」『図書館雑誌』59(7), 1965.7, p.238-244.
 - 29) 施設委員会「地域計画から図書館計画へ」『図書館雑誌』67(9), 1973.9, p.393-413.
 - 31) 前掲10) p.117.
 - 32) 前掲11) p.8-13.
 - 33) 佐藤仁「図書館建築の問題点」『建築文化』18(197), 1963.3, p.70.
 - 34) 佐藤仁「我国における図書館建築の最近の動向」関東地区公共図書館研究発表大会事務局編『関東地区公共図書館研究発表大会報告書 昭和38年度』関東地区公共図書館研究発表大会事務局, 1964, p.13. 1963年(昭和38)6月12-13日に開催
 - 35) 菅原峻「図書館サービス網：システム計画論への歩み」『図書館界』28(2/3), 1976.9, p.92-95. 引用部分はp.93.
 - 36) 森博(1923-1971) 1956年から59年大田区立池上図書館、1959年から64年洗足池図書館。
 - 37) 前掲8) p.59.
 - 38) 栗原嘉一郎(くりはら・かいちろう、1931-2011) 建築家。1959年大阪市立大学講師、1963年助教授、1970年教授。1964年施設委員会委員、1979年から1994年まで委員長。
 - 39) 栗原嘉一郎「公共図書館の地域計画に関連して：建築家として図書館人に望む」『図書館雑誌』59(7), 1965.7 p.245-244.
 - 40) 「長岡市立互尊文庫 計画から建築まで」『図書館雑誌』62(9), 1968.9, p.390-398.
 - 41) 佐藤仁「図書館建築計画のすすめ方--公共図書館の場合--」『丸善ライブラリーニュース』(69), 1969.1, p.616.
 - 42) 前掲27) 全国図書館大会における菅原峻の発言。
 - 43) 西川馨「旧調布市立図書館の設計こぼれ話」調布市立図書館編『調布市立図書館50年の歩み』調布市立図書館, 2018, p.7.
 - 44) 『町田市図書館計画への提案：1971』日本図書館協会, [1971].
 - 45) 『図書館ハンドブック』(日本図書館協会)は改訂版(1960)と第4版(1977)を比較。
 - 46) 『市民の図書館』(日本図書館協会)は、初版(1970)と増補版(1976)を比較。
 - 47) 佐藤仁・西川馨『公共図書館』井上書院, 1974, 196p
 - 48) 菅原峻「公共図書館の建築：1953年～1978年」『現代の図書館』16(4), 1978.12, p.176-185. 引用箇所はp.184-185.
 - 49) 神奈川県図書館協会基礎研究委員会編『神奈川県の図書館地域計画：基礎研究委員会報告書』神奈川県図書館協会, 1970, 113p